

1月号

ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校
平成30年12月21日

校長だより



「人生時計」



校長 上澤 司

日本では年の表し方が実に多くあります。来年新しく変わる「元号」、そして「西暦」、「干支」などです。「干支」は、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸という十干を、天地を構成する五行（木火土金水）に当てはめ、これに子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二支とを組み合わせる年を数えるものです。60通りの組み合わせの後に再び最初の「甲子」に戻ることから、60年で暦が帰ってくるので「還暦」と呼び、そこから60才を差す言葉となりました。毎年8月に全国選抜高校野球大会が行われる「甲子園球場」は、1924（大正13）年、甲子の年に建設されたことから命名されたというのは有名な話です。

さて、時の表し方に「人生時計」というものがあることはご存じですか？

「朝は四本足、昼は二本足、夕は三本足、この生き物なあに？」というスフィンクスの謎かけは、人間の一生を1日に例えたもので、昔からそのような考え方があったようです。これが、「人生時計」と呼ばれるもので、「自分の年齢を3で割り、その数字を24時間制の時計に当てはめてみる」と自分の人生の時刻を知ることができるというわけです。



たとえば、小学部卒業の12才は、朝4時。中学部卒業の15才は、朝5時。まだまだ爆睡中の子もいれば、そろそろ起き出す子も出てきます。成人20才は、朝7時頃ですから、朝食を食べて1日が始まろうとしている頃。30才は、10時でバリバリ働いている頃。50才は16時過ぎでそろそろ退勤時間が迫っている、同時に楽しいアフターファイブが始まる頃。60才の年齢は20時で夜のゴールデンタイム、一日の疲れを癒やす時間、という具合です。

そう考えると、爆睡中の小学部・中学部の子どもたちには、限りない可能性が広がっていて、まだ発揮されていない能力が眠っているということが、妙に納得できます。ですから、まだ見つけられていない子どもたちの可能性を引き出し、伸ばすために、私たちは毎日、様々な取り組みや活動を工夫し提供すること、そして、みんなが目的を共有し、協働しかかわっていくことが必要なのです。

皆さんの人生時計は何時ですか？私はそろそろ疲れを癒やす時間帯ですが、呑気に癒やせるのか、預金通帳を眺めながら悩むゴールデンタイムを過ごす日々です。